

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	熊本大学	整理番号	1-2-113
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	学習と社会に扉を開く全学共通情報基礎教育		
申請単位	大学全体		
申請担当者	宇佐川 毅		
<p>(取組の概要)</p> <p>大学における教育研究活動のためのみならず、大学卒業後のネットワーク社会において自由闊達に活躍するためには、情報基礎分野における基礎的な知識と技能が不可欠であり、これらは現代社会における“基本ライセンス”とも言える。このライセンスを取得するためには、基本的な利用技術に加え、ネットワークを利用する上で不可欠な法的規制に関する知識、ウィルスなどセキュリティに関連する各種事態への対応方法を総合的に学習する必要がある。本取組では、全学的な支援のもと、全学必修科目として情報リテラシー教育に取り組んでいる。さらに教育内容に関して高等教育機関として十分に高い教育水準を設定した上で、この水準に受講者が到達できるよう教育するための組織的教育実践を行っている。特に、一般的の教科とは異なり、大学の設定した水準に、単位習得者全てを到達させるための工夫は非常に特徴的であり、本取組の目標である「基本ライセンスの取得」という位置付けとの対応からも重要である。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は熊本大学総合情報基盤センターにより、既に7年間にわたって組織的に展開されており、着実な成果を上げています。情報分野における基礎的な知識と技能は、現代社会における「基本ライセンス」であるとの認識に立ち、1年次の全学生 1,800 名に対して十分な実習環境を提供するとともに、周到に計画された情報リテラシー教育を実践しています。センターが開発したオンライン学習システムを利用して、学生たちは学習達成度を自己確認し、かつ満足いくレベルまで高めています。専門教科集団は、講義テキストと電子教材の作成と更新、教育内容の検討、評価基準の統一などに取組んでおり、全体として整合性が取れています。情報教育に限定されない普遍的な教育内容として、他の大学、短大の参考になり得る優れた取組であるといえます。</p> <p>今後、倫理的判断力やセキュリティ意識といった人間形成面に係わる教育内容への充実を図り、また中等教育との連携を強めることにより、更なる発展が期待できます。</p>			